

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科(昼間部)		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	栄養学・薬理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	後期 月3, 4限・木1, 2限	教室名	4校舎301
担 当 教 員	芝山伸男(栄養学) 吉澤 みな子(薬理学)	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
栄養学では、健康維持や疾患治療のための適正な栄養療法を理解する。薬理学では、言語聴覚・嚥下障害に関連する主要薬剤の作用や副作用、機能への影響を体系的に学ぶ。これらを通じ、医療チーム内で栄養・薬剤情報を適切に共有し、リハビリ支援に応用する力を養う。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト(筆記試験)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
栄養学(芝山):【教科書】食と健康がみえるー栄養療法の実践ー 薬理学(吉澤):教科書は使用せず、必要に応じてプリント資料を配布する。参考図書については、学習内容に応じて授業内で適宜紹介する。						
《授業外における学習方法》						
栄養学(芝山):指定した教科書を事前に読んでおくこと 薬理学(吉澤):毎回の授業内容を復習すること。また、授業で配布するプリントの確認問題や課題(練習問題)に取り組むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
栄養学:栄養療法について分かりやすく説明するので、積極的に取り組むこと。 薬理学:薬物名だけでなく、各薬物について「分類」「作用」「副作用」を関連付けて整理し、体系的に理解を深めること。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養療法の概要を説明することが出来るようになる。		教科書	P2～P25を事前に読んでおく
		各コマにおける授業予定	・栄養療法の概要 ・栄養管理プロセス ・食事摂取基準 ・食品成分表 ・栄養摂取法			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	低栄養の原因を説明することが出来るようになる。		教科書	P112～P123を事前に読んでおく
		各コマにおける授業予定	・低栄養とは ・低栄養の原因 ・GLIM基準による重症度判定 ・フレイル・サルコペニア			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	糖尿病の種類とその栄養療法を説明することが出来るようになる。		教科書	P184～P227を事前に読んでおく
		各コマにおける授業予定	・糖尿病とは ・血糖調節機能 ・病態と合併症 ・診断と検査 ・治療の全体像 ・1型糖尿病 ・2型糖尿病			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎臓病の機能と栄養療法を説明することが出来るようになる。		教科書	P248～P277を事前に読んでおく
		各コマにおける授業予定	・腎疾患 ・急性腎障害 ・ネフローゼ症候群 ・慢性腎臓病 ・糖尿病関連腎臓病 ・透析療法			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	嚥下障害の評価とその栄養療法を説明することが出来るようになる。		教科書	P276～291を事前に読んでおく
		各コマにおける授業予定	・嚥下障害とは ・問題点 ・症状 ・誤嚥とは ・検査法 ・嚥下調整食分類			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨粗鬆症の原因をと食事療法を説明することが出来るようになる。	教科書	P382～P389を事前に読んでおく
		各コマにおける授業予定	・骨粗鬆症とは ・骨のリモデリング ・骨代謝の調節 ・栄養療法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	食物アレルギーの診断とその食事療法を説明することが出来るようになる。	教科書	P398～P413を事前に読んでおく
		各コマにおける授業予定	・食物アレルギーとは ・定義と分類 ・食物アレルゲン ・栄養療法		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語聴覚士に関わる栄養学の知識を整理できる。	教科書	全ページ
		各コマにおける授業予定	今までの講義のまとめ、学期末テストの説明。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語聴覚障害および摂食嚥下障害に関連する薬理学の基礎知識を習得する	・PC ・プロジェクター	授業で扱った内容について配布資料を見直し、確認問題や課題(練習問題)に取り組んで理解を深める
		各コマにおける授業予定	薬理学の基礎概念を理解し、言語聴覚障害および摂食嚥下障害に関連する薬理学の学習に向けた基盤を形成する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬物の主作用・副作用・有害事象の関係を理解し、薬物動態の基礎を踏まえて薬物の影響を判断できる力を習得する	・PC ・プロジェクター	授業で扱った内容について配布資料を見直し、確認問題や課題(練習問題)に取り組んで理解を深める
		各コマにおける授業予定	薬物の主作用と副作用、薬物有害事象の基本的な概念を理解し、薬物動態(吸収・分布・代謝・排泄)の基礎について学ぶ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	抗てんかん薬の作用機序と副作用を理解し、臨床での言語・嚥下評価における注意点を適切に把握できる	・PC ・プロジェクター	授業で扱った内容について配布資料を見直し、確認問題や課題(練習問題)に取り組んで理解を深める
		各コマにおける授業予定	抗てんかん薬の種類と作用機序を理解し、副作用および薬物有害事象の特徴について学ぶ。また、言語・嚥下評価を行う際の注意点を確認する		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	パーキンソン病治療薬・認知症治療薬の作用と副作用、および嚥下・構音・認知・コミュニケーションへの影響を理解できる	・PC ・プロジェクター	授業で扱った内容について配布資料を見直し、確認問題や課題(練習問題)に取り組んで理解を深める
		各コマにおける授業予定	パーキンソン病治療薬および認知症治療薬の作用機序と副作用を理解し、これらの薬物が嚥下機能、構音、認知・注意機能、コミュニケーション能力に及ぼす影響について学ぶ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳血管障害治療薬の作用と副作用を理解し、リハビリの安全性に関わる薬物の影響を適切に把握できる	・PC ・プロジェクター	授業で扱った内容について配布資料を見直し、確認問題や課題(練習問題)に取り組んで理解を深める
		各コマにおける授業予定	脳血管障害の治療に用いられる主要な薬物の種類と作用を理解し、副作用がリハビリテーションの安全性にどのように影響するかを学ぶ		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	抗精神病薬・ADHD治療薬の作用と副作用、およびコミュニケーションや注意機能、構音・嚥下への影響を理解できる	・PC ・プロジェクター	授業で扱った内容について配布資料を見直し、確認問題や課題(練習問題)に取り組んで理解を深める
		各コマにおける授業予定	抗精神病薬および注意欠陥・多動性障害(ADHD)治療薬の作用と副作用を理解し、これらの薬物がコミュニケーション、注意機能、構音、嚥下に及ぼす影響について学ぶ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬剤性嚥下障害・構音障害の発症機序と関連薬剤を理解できる	・PC ・プロジェクター	授業で扱った内容について配布資料を見直し、確認問題や課題(練習問題)に取り組んで理解を深める
		各コマにおける授業予定	薬剤性嚥下障害および薬剤性構音障害の発症機序を理解し、関連する薬剤の特徴について学ぶ		